

障害者の心身の機能回復を促す乗馬活動を進めるNPO法人「青い風牧場 馬とふれあう会」（横浜市青葉区・中田順寿会長）の馬4頭が6日、北海道から860キロの旅を終えて県庁に到着。知事と県議会あてに活動の理解を求める要望書を手

「乗馬で障害者の心身機能回復を」 馬4頭と知事らに要望書

NPO「馬とふれあう会」

渡した。

要望書は、足の障害に負けず3年近く前から乗馬をたしなむ吉田悠子さん(30)が馬上から提出した。父の滋さん(67)は「馬が歩くリズムは体の動きに良いようだ」と効果を実感している。

馬は、ヨーロッパなどで「アニマル・セラピー」に用いられ、障害者らの身体機能や感情表現のリハビリに効果的とされる。かつて日本人の生活と共にあった在来種は気性が穏やかで最適。同会は障害者乗馬と在来種をアピールするため旅を続けてきた。中田会長は「どこでも『馬が居るぞ』と注目された。馬の協力で広く理解を得られた」と話した。

【縮田佳代、写真も】



中村省司県議会議長に要望書を手渡す吉田さん(馬上) 県庁前で6日